

## 景気ウォッチャー調査からみる乗用車販売の行方

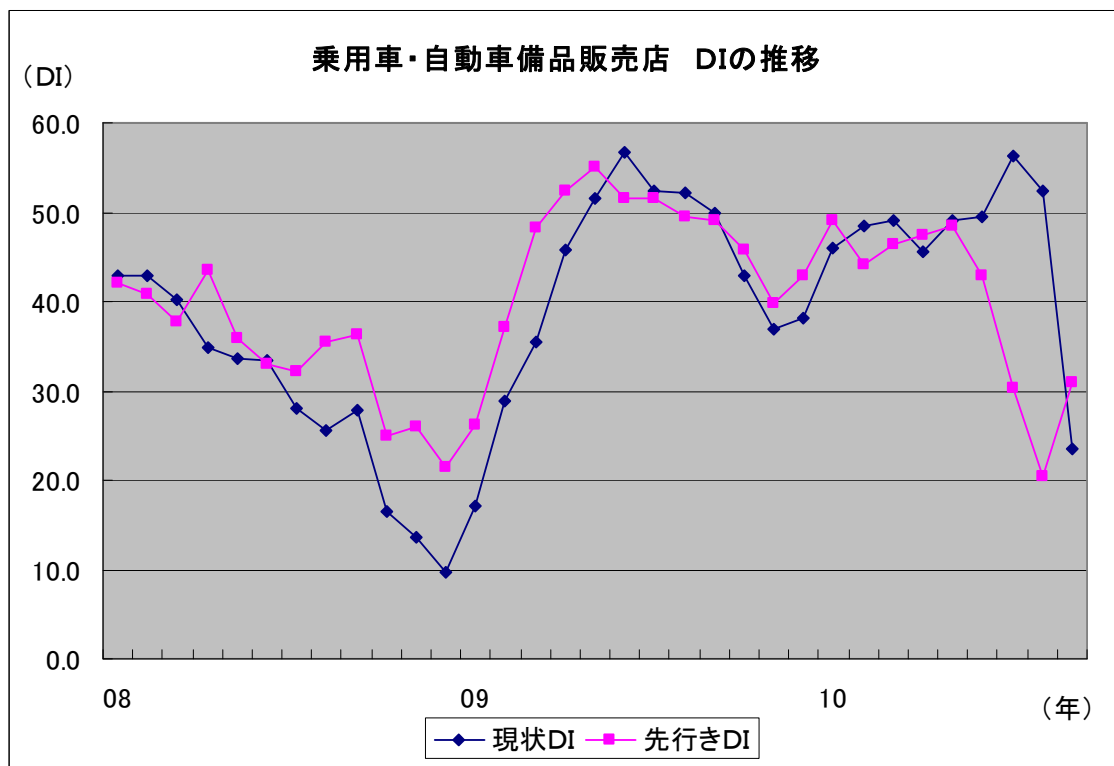
### ポイント

- ・乗用車販売における現状DIと先行きDIの関係を見ると、先行きDIは現状DIに対して1～2か月の先行性が見て取れる。
- ・乗用車販売統計の前年比と上記先行きDIには、先行きDIが前年比に対して3～6か月先行しているという相関関係がある。
- ・9月調査で乗用車販売の先行きDIは反転上昇しているため、乗用車販売と先行きDIの相関関係から見ると、乗用車販売も底打ちの兆しが想定される。
- ・足元、補助金終了により自動車販売は大きく減速しており、また、需要の先食いをもたらしている面が大きいとして、今後の経済成長の下押し要因として懸念されている。しかし、景気ウォッチャー調査から見る限り、乗用車販売は本年末から年明けあたりで前年比の減少幅が縮小し、上向いてくる可能性がある。

### 1. 乗用車関連における現状DIと先行きDIの相関

景気ウォッチャー調査における家計動向関連の「乗用車・自動車備品販売店」（以下、乗用車関連）の現状DIと先行きDIの関係は、以下のグラフのとおりとなっている。

（なお、今後特に記載が無い場合は、各DIはすべて乗用車関連DIのこととする）



近年、2008年1月から2010年9月調査までの相関は1か月で0.8185、調査客体が全国で2,050人となった2001年8月以降でも0.8166と高く、現状DIは先行きDIに対して1～2か月の先行性があるということが言える。



### 3. 景気底打ちの可能性

足元、補助金終了により自動車販売は大きく減速しており、また、需要の先食いをもたらしている面が大きいとして、今後の経済成長の下押し要因として懸念されている。

しかし、景気ウォッチャー9月調査においては、乗用車販売の先行きDIは反転上昇している。また、ウォッチャーのコメント（判断理由集）を参照しても、新車発売に対する期待等があり、決して悲観的なコメント一色ではない。

最近の動きの傾向から見ると、この9月調査における先行きDIの反転を受け、現状DIは年末ごろまでに底打ちの兆しが表れる可能性がある。また、景気ウォッチャー調査から見る限り、乗用車販売についても最短で12月、来年1～3月あたりで前年比の減少幅が縮小し、上向いてくる可能性があると言える。

この年末が景気の底となるのか、10月調査以降のDI動向が注目される。

担当：経済調査部 山下 茜

お問い合わせ先：

TEL 03-5280-6250

E-Mail [solution@jeri.co.jp](mailto:solution@jeri.co.jp)

著作権 (C) Japan Economic Research Institute Inc. 2010

当資料は、株式会社日本経済研究所（JERI）により作成されたものです。

当レポートは情報提供のみを目的として作成されたものです。本資料は、当研究所が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。